



第3節 冬型気圧配置（西風の場合が強いとき）

図14は、1999年1月10日の地上天気図である。強い冬型気圧配置になっている。等圧線は、滋賀県近辺では北西から南東に伸びている。このようなときは、地上の風の場合は、図15に示すように西風成分が強く、滋賀県南部へは、南西の風が近江盆地へ進入してくる。滋賀県北部では西または西北西の風の場合となる。このようなときは、典型的な北雪型で、今津や長浜以北で大雪となるが、滋賀県中部や南部では良い天気となる。

このような風を、湖西や沖ノ島では昔から「ヒアラシ」と呼んでいるが、天気は良いが、乾燥した寒い日となる。

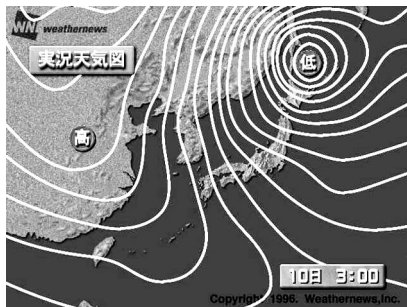


図14 地上天気図(1999年1月10日午前3時)

IMOC Weather Page : <http://www.imoc.co.jp/>より入手した。

第4節 冬型気圧配置（北西風の場合になったとき）

図16は、1999年2月4日の節分寒波の日の地上天気図である。滋賀県近辺の等圧線は、南北に立っている。この日のJava画像を図17に示す。

ビワコダスのホームページで、次のような解説を行っている。「2月3日午後から滋賀県北部では本格的な雪が降り出した。超一級寒気団の南下である。北陸自動車道長浜付近では、凍結によるスリップで36台の玉突き事故が発生した。北雪は徐々に南下し、3日夜は、北小松では-3℃に下がり、積雪は15cm程度であった。夜の国道161号線は、路上凍結のためか大渋滞を引き起こしていた。第一級の節分寒波となった。

翌4日(立春)には、全県的な積雪が見られた。午前中は堅田や野洲でも激しい降雪に見舞われ

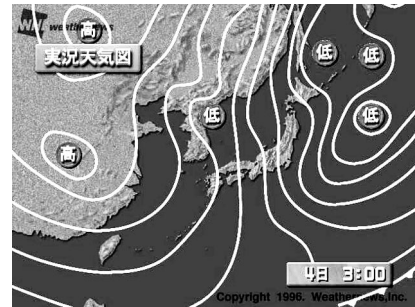


図16 地上天気図(1999年2月4日午前3時)

IMOC Weather Page : <http://www.imoc.co.jp/>より入手した。

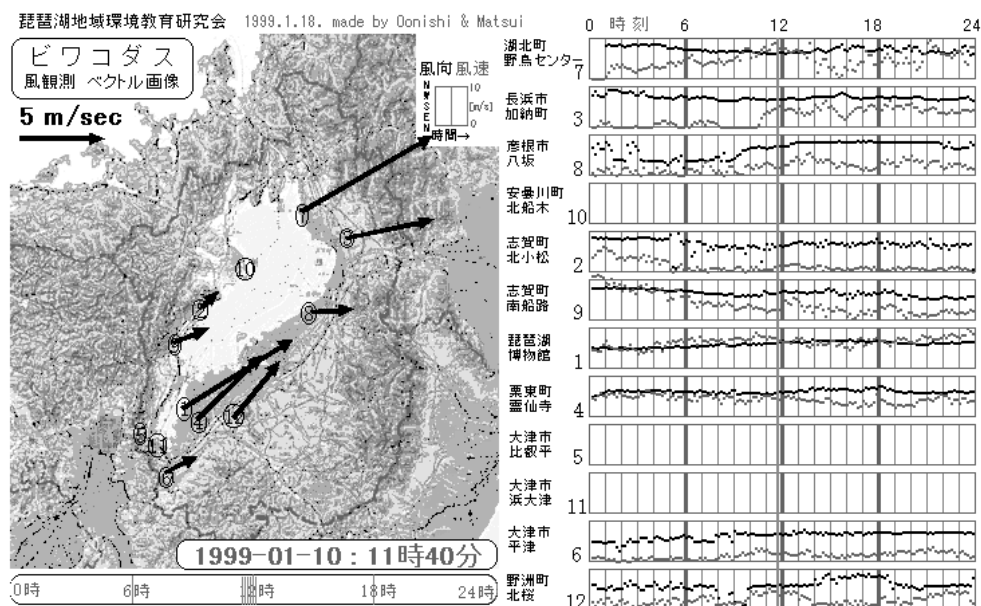


図15 北雪型のビワコダスJava画像（1999年1月10日午後11時）

た。通勤途上の路面はすべて一面雪で覆われていた。今回の降雪は近畿南部や四国、九州でもみられた。超一級の寒気団がもたらしたものと言えよう。」

図17の4時10分の画像は、滋賀県に流入する風は「南部では南西の風」、「北部では北西の風」となっていることを示す。これは、滋賀県北部は日本海式の天候に見舞われるが、南部は乾燥した良い天気になっていることを物語るはずである。しかし、雪は近畿南部でもちらついた。これは、第一級の寒気団の影響によるもので、珍しい現象であると思う。

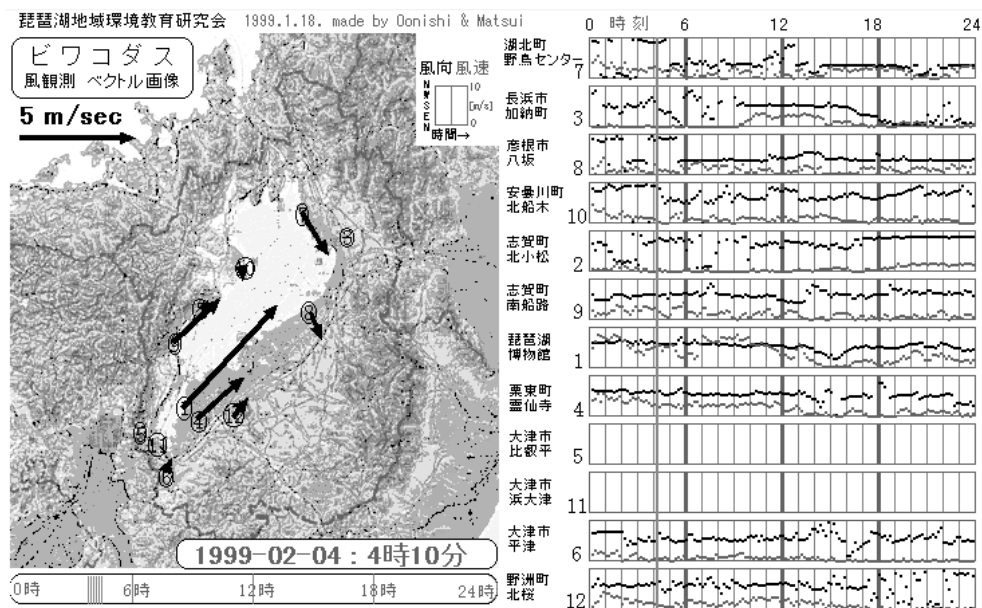


図17 ビワコダスJava画像（1999年2月4日午前4時10分）